

高齢化等に対する取り組みの方向性

資料 2-3

●現状に対する問題意識

急速か高齢社会を迎え、高齢者が暮らしやすい都市とはどのような都市か。

- ・健康な高齢者が安心して生活でき、趣味や生き甲斐を持ち、地域・コミュニティに貢献できるような環境づくり。
- ・要介護者が適切な介護サービスを受容し、家族・地域と交流を持ち、コミュニティでサポートし合いながら安心して生活できる環境づくり。

●取り組みの方向性

適正な対応により市町村の財政的な持続性の確保

- ・適正な対応策の選択により、財政的な持続性を確保し、住民に十分な行政サービスを提供。

土地利用の再編により、より便利で、ゆたかな生活環境の実現

- ・利便性の高い地域へ高齢者の誘導。
- ・都市外縁部のストックを活用し、高齢者だけでなく、子育て世代等にとっても暮らしやすい、ゆたかな生活環境の実現。

居住意向の多様化が予想される、団塊の世代以降の世代への対応

- ・田舎(Ｕターン先)を持たない世代への対応。
- ・生活スタイル、志向の多様化した世代への対応。

●ライフスタイル・生活の仕方による対応策

健康寿命の延伸

- ・健康寿命を延ばし元気に活躍できる期間を出来るだけ延ばす。

より利便性の高い住まいの選択

- ・利便性の高い場所に立地する有料老人ホーム、ケア付き高齢者向け分譲(賃貸)住宅等への住み替え。

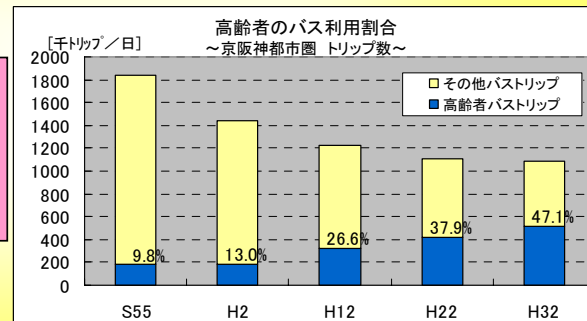
・都市の中心市街地等への有料老人ホーム等の立地を促進

- ・高齢者の住み替えを受け止めるための再編
- ・高齢者が転出した外縁部の空家、空地の活用 等

都市外縁部の既存ストックの活用

- ・団地等の既存ストックの活用(団地の一部を活用し食事サービス等を提供など)により、良好な高齢者居住を継続的に確保。
- ・空家、空地を活用して若い世帯が安心して、子供を産み、育てることができる環境を実現。

- ・団地等の既存ストックの活用
- ・バス等の公共交通網、医療施設の確保
- ・空家、空地の活用 等



(出典) 第4回京阪神都市圏パーソントリップ調査報告書
より国土計画局作成

今後の高齢者居住の方向性 ～(社)全国有料老人ホーム協会のヒアリングより

●大都市圏で高まる有料老人ホーム、ケア付 高齢者向け分譲住宅(賃貸住宅)への住み替え

高まる有料老人ホーム等のニーズ

- ・1世帯当たりの子供の数は1～2人で、核家族化が進み、親の介護が難しい。
- ・自治体の財政状況から、特養老人ホームの大幅な増加は見込めない。
- ・今後、高齢者の絶対数が増加する。

有料老人ホーム等のニーズは高まり、今後も増加する。

高い大都市圏への立地ニーズ

- ・住宅と同様に、生活環境、利便性のよい場所に対するニーズが高く、マンションの人気エリアに有料老人ホーム等のニーズも高い。
- ・現在の住居付近の有料老人ホーム等への居住意向が高い。
- ・有料老人ホームの経営上、人口50万、商圏100万人以上の都市規模が必要。

人口規模の大きい大都市圏での立地ニーズが高い。

大都市圏の利便性の高い場所に立地する有料老人ホーム等へ高齢者の住み替えが今後増加。

●既存ストックの活用による良好な高齢者居住の確保

既存住宅団地等の活用による高齢者の受け皿整備

- ・三大都市圏の郊外都市外縁部において、高齢者が増加する住宅団地が増加。

既存ストックの有効活用

- ・住宅団地の1棟を有料老人ホームにして、団地に居住する高齢者を受け入れる。
- ・棟の一部を公共スペースとし、食事、介護サービスを提供する。
- ・医療施設、公共交通網等の整備による高齢者の生活利便性の向上。

団地等の既存ストックの活用により、高齢者の居住地域内での受け皿の整備も可能となる。

有料老人ホームに対する入居希望者のニーズ

項目	選択肢			
有料老人ホームに入居したい理由 (「入居したい」回答者を対象・上位4位まで)	家族に世話をかけたくない(20.9%)	「子は子、親は親」の考え方で生活(18.6%)	介護を受けられる(16.5%)	子供がいない、同居できない(13.8%)
介護サービスを受ける場所	民間の高齢者向け住宅(有料老人ホーム、高齢者用マンション等)(65%)	公的福祉施設(特養老人ホーム、老人保健施設等)(14.1%)	自宅(10.8%)	
入居したい有料老人ホームのタイプ (「入居したい」回答者を対象)	入居時自立型(83.7%)	入居時要介護型(14.7%)		
有料老人ホームの立地・自立型 (「入居したい」回答者を対象・上位4位まで)	商業施設の利用や交通の便がよい(23.7%)	住宅環境がよい(21.7%)	医療機関が周辺に多い(17.1%)	現在の住居に近い(15.9%)
有料老人ホームの立地・介護型 (「入居したい」回答者を対象・上位4位まで)	現在の住居に近い(25.1%)	医療機関が周辺に多い(21.1%)	子供や親戚の住居に近い(19.9%)	住宅環境がよい(16.4%)

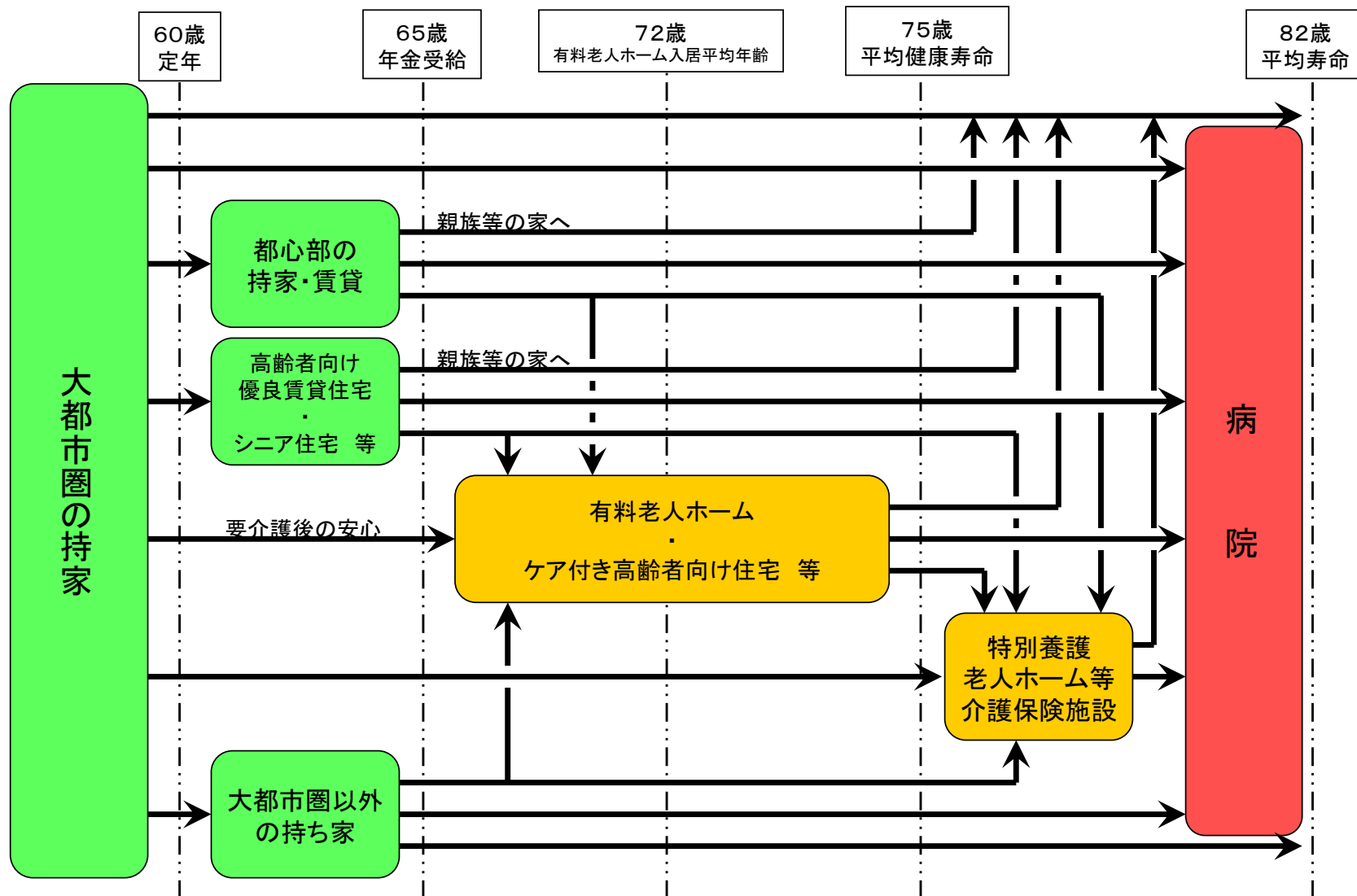
有料老人ホームの件数(三大都市圏別)

	介護付	住宅型	健康型	総計
首都圏	433	22	9	464
近畿圏	115	27	11	153
中部圏	101	19	8	128
全国	810	115	55	980

(出典)厚生労働省調べをもとに国土計画局作成

(出典)有料老人ホーム入居希望者調査((社)全国有料老人ホーム協会)

高齢者の住宅・福祉施設等への住み替え イメージ

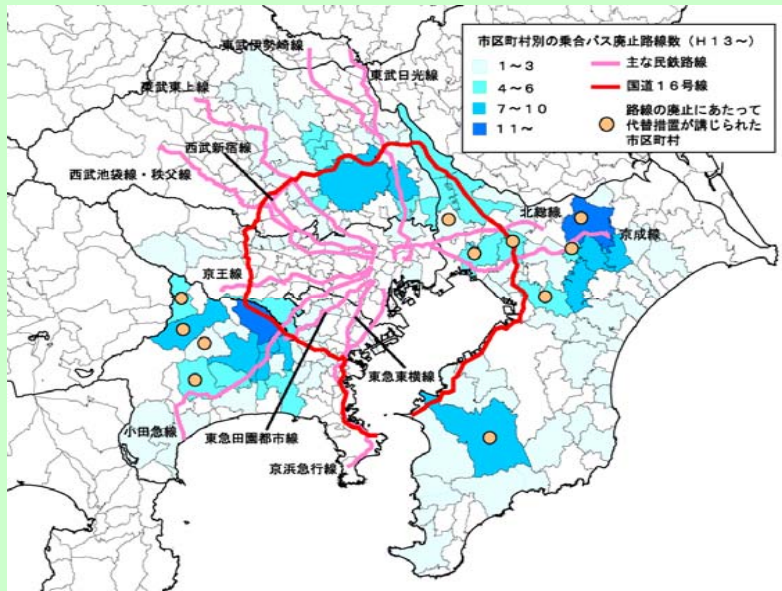


バス交通の現状

<バス交通を巡る近年の動き>

①規制緩和以降のバス路線廃止

- 平成14年2月から乗合バスの規制緩和が実施され、郊外部を中心に283系統のバスが廃止
- 一方、路線の廃止にあたっては、41系統で廃止代替バスが運行されるなどの代替施策が講じられている



廃止バス系統数	うち、代替バス運行等の措置が講じられた系統数
283系統	41系統

（出典）都県地域協議会資料より国土計画局作成

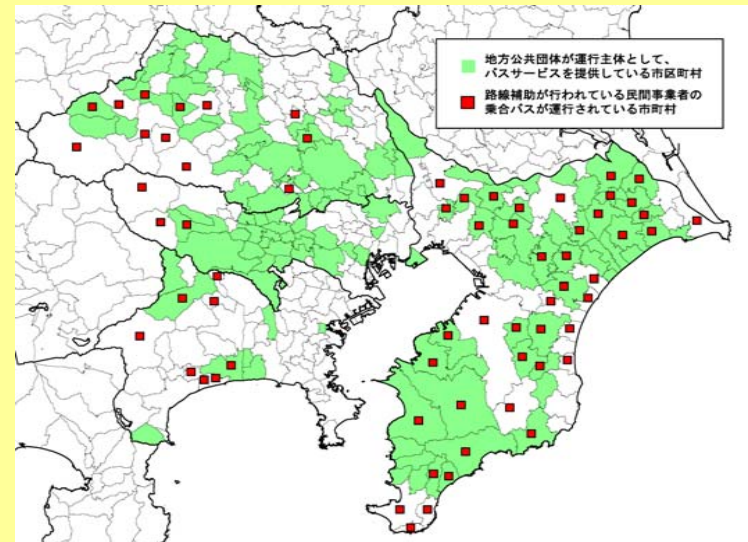
②生活者の足となるコミュニティバスの増加

- 生活者の交通需要にきめ細かく対応するバス路線の増加
 - ・「ムーバス」武蔵野市
 - ・「はるかぜ」日立自動車交通など5社（足立区）
 - ・「代官山循環線」(株)東急トランセ 等

<課題>

地方公共団体が支えているバス交通

- 首都圏では、都心部等を除く大半の地域で、地方公共団体がバス交通を維持している現状



（出典）都県地域協議会資料より国土計画局作成

団塊の世代の地域・コミュニティへの参加・貢献 ～我孫子市の取り組み

●地域活動へのインターンシップ(体験学習)

背景「2007年問題」

- ・人口13万2000人のうち、団塊の世代が約1万人を占める。
- ・団塊の世代が丸ごとリタイア生活に入り、公的なサービスを求めれば、市財政のパンクが懸念される。

団塊の世代を行政サービスを受けるだけでなく、提供する側にまわっていただく

・いきなり地域の課題に取り組むのは難しい……

・会社というタテ社会になれた感覚のままではうまくいかないかも……

・これまで会社勤めばかりで地域のことをよく知らない……

地域活動へのインターンシップ(体験学習)

- ・団塊の世代の「地域への帰還」をソフトランディングに実現。
- ・まずは、団塊の世代の、地域との接点づくり、仲間づくりから。
- ・約300の地域団体(「高齢者」、「健康」、「スポーツ」、「自然」、「文化」等)のうち51団体が受け入れに応じる。

団塊の世代の地域活動での活躍

☆ 夢あるセカンドライフの実現
☆ 行政サービスの維持・継続

2005年(平成17年) No.1144

7.1

毎月1日・18日発行
我孫子市役所総務部広報室
☎ 04-7185-1111 代案
〒270-1102 我孫子市我孫子1959 専地
市ホームページアドレス
http://www.city.abiko.jp

広報 あびこ

● 市民憲章

- 水と土と空の恵に感謝し、自然の恵みを受けとらねばならぬ
- 心と体を鍛え、生き生きと暮らす
- 老人を大切に、子どもの夢を育て、助けあひあひにしよう
- 心を豊かに、文化を高め、豊かなまちにしよう
- みんなで楽しもう、まじりを守り、明るいまちにしよう

地域活動インターンシッププログラム

第1回「シニア世代歓迎の集い」

7月17日 市民会館で

定年退職後のシニア世代を対象に、さまざまな地域の活動を気軽に体験してもらうことを目的として、今年度から新たに実施するプログラムです。

市内では、環境・福祉・教育・文化・スポーツなど幅広い分野で、約300とも思われる市民活動団体やコミュニティビジネスの事業者が活動しています。インターンを受け入れてくれる団体の中から、シニアの皆さんが関心のある活動を自由に選んで一週間程度体験してもらいます。

インターン参加者は、自分に合った地域活動に参加し、これまでの経験を活かして一緒に活動するメンバーと交流し、新たな発見や学びを得ていきます。

＜我孫子市役所が支援しているNPO法人「ダイヤル」＞

今後の具体的な予定は

- インターン参加者募集の募集～7月中旬～8月中旬
- 受け入れ団体向け説明会～9月上旬
- インターン参加者向け説明会～9月上旬
- 活動体験期間～9月中旬～12月中旬
- 報告会～2月上旬

※インターンを受け入れてくれる団体説明会の申し込みは、9月1日までの応募が二でお知らせします。

● 市民活動課 電話 7185-1467

「夢あるセカンドライフをともに我孫子で」

「シニア世代歓迎の集い」は、定年退職したばかりのシニア世代の皆さんが、地域社会で活躍する機会を得ることを目的として、今年度から新たに実施するプログラムです。

「シニア世代歓迎の集い」は、定年退職したばかりのシニア世代の皆さんが、地域社会で活躍する機会を得ることを目的として、今年度から新たに実施するプログラムです。

「シニア世代歓迎の集い」は、定年退職したばかりのシニア世代の皆さんが、地域社会で活躍する機会を得ることを目的として、今年度から新たに実施するプログラムです。

(出典)毎日新聞2005年11月17日朝刊
我孫子市広報誌「広報我孫子」2005年7月1日号